



Title	「休刊」によせて
Author(s)	赤木, 攻
Citation	アジア太平洋論叢. 2019, 21, p. 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100136
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

序

「休刊」によせて

シンプルな黄橙色の表紙を纏った『大阪外国語大学 アジア学論叢』（創刊号、1991年）とアジア太平洋圏を表現する緑色のデザインが映える『大阪外国語大学 アジア太平洋論叢』（第6号、1996年）の2冊を手に取り、感慨に耽っている。大阪外国語大学とその周辺に、アジア研究を核に集まったささやかな研究者集団である「アジア研究会」および「アジア太平洋研究会」（1996年に名称変更）が存在した最も貴重な証である。

当初1年に1冊の定期的刊行を目標として出発したが、約30年の間には紆余曲折があり、計画通りにはいかなかった。とりわけ、大阪大学との合併期（2007年）前後から刊行が滞るようになった。可能な限り継続をと考え努力を重ねてきたが、会員の分散（退職、転任など）が著しく、会の活動自身も支障を来し始め、2010年代に入ると財政的にも存続が無理であることが明白になった。そのため、第20号（2014年）をもって、「とりあえずの休刊」を宣した。しかし、「きちんとした休刊」を公言すべきであるとの関係者の熱意が収まらず、5年を経たの月号（第21号）の刊行となった。

あらためて、『アジア太平洋論叢』の「休刊」を告知する次第である。そのこともあり、月号には関係者有志の回顧録も掲載している。また、これまで収録されていなかった時期の研究会活動も、調査漏れもあるが、収めることができた。

実際には、「廃刊に近い休刊」であることも告白しておかねばならない。あえて「廃刊」ないしは「停刊」といった類の言葉を使用しないのは、次世代のアジア研究を担う研究者に一縷の望みを抱いているからである。とりわけ、大阪外国語大学のアジア研究の流れを引き継いでいるはずの大阪大学の中で、新しいアジア研究の気運が高まることへの期待である。関西というアジア諸地域との交流の歴史が長い土地には、独自のアジア研究の花が咲くはずである。そうした研究者仲間と研究誌刊行の話が出た際には、この『アジア太平洋論叢』を「復刊」していただけないだろうか。

最後に、これまで「アジア研究会」および「アジア太平洋研究会」に協力・支援いただいたすべての方々へ心から感謝申し上げる。

2018年大晦日
会長 赤木 攻